

## 令和2年度を振り返って

令和2年度の広島市民病院看護部では目標を2つ挙げました。

1つ目の目標は、看護職の責務を担い、看護の質向上を図ること。2つ目は、働きやすい職場環境を整備することでした。今年度は病院機能評価の受審準備と同時に、COVID-19の流行から安心・安全な看護を提供する中で、特に、感染対策の強化を重点目標にあげました。三密を回避するため、集合研修をオンライン学習やDVDの視聴へ変更し、感染に対する意識の向上と、視覚的な学習効果をねらった研修に変更しました。その結果、個人に合わせた学習時間を確保できるようになり、視聴回数や時間が増えオンライン学習の促進につながりました。



しかし、アウトブレイクこそ起こりませんでした。院内クラスターが2回発生しました。このことは、残念な結果でしたが、今回の経験は次へ活かせると考えています。

2つ目の目標は、変則2交代制勤務の導入に取り組みました。看護は24時間365日夜勤交代勤務を行い、患者の生命と健康を守るやりがいのある職業です。それと同時に夜勤をすることは、注意力や集中力の低下に伴うリスクが高くなります。そのため、看護師の健康保持と離職を防ぎ、長期定着することのできる働きやすい職場環境の整備が必要となります。そして、安全で質の高い医療・看護の提供を目指し、2020年6月から変則2交代制勤務を試行開始することができました。

変則2交代勤務部署の職員に対し、試行前後の身体面・精神面・勤務体制に関する意識調査を行った結果、試行前の3交代勤務に戻すことがよいといった意見はなく、変則2交代制勤務の試行部署の拡大に向けて一歩前進したと評価しています。

日本的雇用の見直しや働き方改革などは、以前から語られていた言葉ではありますがなかなか進めていくことができませんでした。しかし、COVID-19の感染拡大により、日常の生活様式の変化が求められていることを時代の大きな節目であると前向きに捉え、今後もオンライン教育などICTを活用した人材育成の推進や働き方改革への取り組みを継続します。

どうぞ今後ともご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

広島市立広島市民病院  
副院長(事)看護部長 長谷川 聡子